

平成29年度第3回鶴の里まちづくりミーティング 意見まとめ

平成29年12月19日（火）10：30

食生活改善推進協議会役員14名

- ・健診時の朝食提供について最初は「味が薄くて食べられない」という意見も多かったが、最近は「この味にも慣れてきた」など言ってくれる人が多くなって否定的な意見が少なくなった。
- ・去年の朝食提供時に自宅の味噌汁との塩分比較にも取り組んだ。我が家では塩分を控えているという人も比較すると多く取っている人が見られる。
- ・健診時の朝食を味付けの際の判断基準にしているという町民に何人も会った。町民の意識も少しずつではありますが健康づくりに向かって意識が向上している。
- ・鶴遊館の調理室を水道光熱費も含めてすべて無料で使えるのは大変ありがたい。他の地域だと有料だったりそもそも場所を確保するのが難しい。
- ・朝ごはん条例は今後どういう展開を考えているのか。それに伴い、会としての活動や方向性が変わってくる。
- ・町民の声を直に聞けるのは健診の際の朝食提供である。栄養士が計算した料理と自分の家庭の味と比べて気づく場所でもあると思う。この朝食提供は町としては評価してくれるのか、今後も継続していけるのか。
- ・会として小学校の調理実習を教えにしているが、昔は朝ごはんを食べていない子どもが多かったが今は食べてきている子どもが多くなった。食べてくるだけでも体には良いのだが、バランスの良いメニューは食べていない。野菜はまず食べていないし、おにぎりやパンだけの家庭が多い。
- ・子ども達に朝ごはんをきちんと食べさせてくださいと親御さん達に伝えたい。
- ・土曜日は朝ごはんを食べていない子どもが多い。
- ・サンシャインスクールのお弁当がコンビニのおにぎりやパンの子どもがいる。そういった食べ物は味付けが濃く、小さいころから濃い味付けに慣れてしまっている子どもがいる。

- ・「親子」、「男性」などにターゲットを絞って部門別に料理教室を開催している。参加人数は少ないが長い目で見て欲しい。
- ・料理教室や朝食提供時に簡単な料理メニューが書かれた冊子を提供したい。
- ・町の未来を変えるのであれば、子どもの食事を変えていかなければならない。
- ・子どもが食べられない野菜でも自分で料理をすれば食べられることがある。料理をする機会を増やしてくれれば子どもの意識も広がり、親の意識も変わると思う。
- ・祖母と孫の料理教室はおもしろそう。両親が共働きで忙しい家庭に対しても子どもを見るという名目の元、交流や食に対する勉強になる。
- ・父親と子どもの親子料理教室もやってみたい。母親の苦勞もわかるので。
- ・「つるりん鍋」を平成27年度に作ったが1年限りで終了したのはもったいない。今後、いのちのまつり等で提供できないものか。
- ・「つるりん鍋」は他の団体や高校生の力を集めた上で完成したので鶴田の名物・ご当地料理として定着させたい。
- ・「つるりん鍋」をいのちのまつり等で提供するのはいいが自分達も料理提供があったりと人員が不足してしまう。
- ・「つるりん鍋」に関して、助成金や予算が厳しいのであれば、規模を小さくしてでも継続していくべき。
- ・食生活改善推進員になるための講習会に参加する人が少なくなっている。
- ・若い人の間では食生活改善推進員の存在や講習を知らない人が多い。
- ・食生活改善推進員自体も高齢化が進んで活動に参加できない人が増えている。
- ・「みつば会」という愛称が知らない人がいる。みつば会が食生活改善推進員に繋がらない。
- ・保健師に誘われて講習に参加した人がいる。町として後押ししてほしい。

- ・朝食提供の有料・無料はどうすればいいのか。
- ・広報誌に載せているメニューを随時新しいメニューを掲載していきたい。
- ・広報誌と一緒にメニューだけを載せた一枚紙を入れたい。
- ・町民自らが塩分摂取量などに気づいてもらう機会を増やしたい。自分達の意識を高めなければ食生活は変わらない。
- ・議員は推進員の活動を知っているのか。